

※仕様書のすべての項目に漏れがないよう記入してください。

依頼試験仕様書 (PCR 用 病毒物質用容器)

試験成績書に記載する		会社名	XXXX 株式会社		①	
		住所	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX			
試験名	危険物容器及び包装 (小型容器) の性能試験		試験基準	HK (UN)		
容器使用	品名	組合せ容器 ・ 記号 [ 4G ]			②	
	型式	XXXXX	製造年月 (試験品)	20XX年 XX月		③
	製造者	組み上げ	不特定			④
		一次容器	XXXX株式会社			
		二次容器	株式会社XXXX			
	構成 (材質、個数)	外装容器	XXXXXXXX株式会社			⑤
		一次容器	プラスチック製容器	個数: 1		
		二次容器	プラスチック製容器	個数: 1		
		外装容器	ファイバ板箱	個数: 1		
		蓄冷材	ドライアイス / 蓄冷材 / その他		kg	
許容容量	15 ml (g) (一次容器1個の最大内容積)				⑥	
許容正味質量	10.7 g (一次容器+充填物の合計最大質量)				⑦	
容器質量 (風袋)	一次容器	6.7 ± g × ( ) 個 = ± g	⑧			
	二次容器	19.7 ± g (吸水材を含む)				
	外装容器	28.3 ± g (緩衝材等を含む)				
合計	54.8 ± g					
最大許容総質量	59 g				⑨	
充填物質	実運用時の容量	唾液の採取量: 1 ml / 不活化液: 3 ml	⑩			
	国連番号	3373	種類	液体 / 固体		⑪
	比重	---				⑫
試験時の代替物質	物質名: 不凍液 / 比重: 1.05				⑬	
試験品個数	充填品 (11) 個 + 非充填品 1 個 = 合計 (12) 個					
	一次容器・二次容器の非充填品各 3 個 = 合計 (6) 個					
備考						

(注) 上記の内容は、試験成績書に記載されますので正確にお書き下さい。

記入例	
①	試験成績書に記載する会社名及び住所をご記入ください。
②	対象の品名をご記入ください。 例: 記号[ 4G ] 4G: ファイバ板
③	型式・製造年月 (試験品) をご記入ください。
④	各製造業者名をご記入ください。
⑤	材質等の構成をご記入ください。 ※蓄冷材を使用する場合は、__欄に○を付け質量をご記入ください。
⑥	許容容量 = 試験体容器 1 個の最大内容積。 ※口部までの満杯容量をご記入ください。
⑦	許容正味質量 = 内容物の質量 = 「実運用量」+ 「一次容器質量 (風袋)」× 「個数」
⑧	容器質量 (風袋) ± 公差をご記入ください。
⑨	最大許容総質量 (小数点以下切り上げ) = (許容正味質量) + (二次容器質量 (風袋)) + (外装容器質量 (風袋)) ※公差の最大を考慮して計算してください。
⑩	実運用時の容量 (唾液採取量、不活化液) をご記入ください。
⑪	__欄に○を付けてください。
⑫	充填物質の比重をご記入ください。
⑬	試験時の代替物質名・比重をご記入ください。

⑦⑨の計算例

- ・許容容量 = 15[ml]
- ・実運用量 = 4[ml] (唾液 1ml、不活化液 3ml)
- ・一次容器質量 (風袋) = 6.7[g]
- ※一次容器が複数の場合、全個数の質量で計算。
- ・二次容器質量 (風袋) = 19.7[g]
- ・外装容器質量 (風袋) = 28.3[g]

⑦許容正味質量 = 4 + 6.7 × 3 = 10.7[g]

⑨最大許容総質量 = 10.7 + 19.7 + 28.3 = 58.7[g]  
≈ 59[g]